

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	友達とのかかわりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。	中間評価	深い学びを目指して、課題設定や授業のゴールを明確にするなど、授業の導入の仕方を工夫してきたことで、児童が見通しをもって主体的に活動する様子が増えてきている。	最終評価	
環境作り		主体的に児童が学び合う場と機会の設定を行うとともに、特別支援教育の視点やユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境作りを行う。		主体的に児童が考えたことを表現できるように、ICT機器やミニホワイトボードなどを活用しながら学び合えるように教育環境を整備した。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	・4月より平仮名を学習し、読み書きは終了している。 ・7～9月に片仮名を学習し、現在漢字の学習は、9月から始まっている。 ・短い文を進んで書く児童が多く、習った片仮名や漢字を、すぐに使っている。 ・図書の学習に興味を持ち、たくさんの絵本を読み、読み聞かせを楽しんでいる。	・片仮名、漢字は、短い期間での学習で定着していない児童が多い。漢字についても、基本の「はね、はらい、とめ」「書き順」について十分に定着していない。 ・書くことに意欲をもって取り組む児童が多く、習った平仮名・片仮名、漢字に自信をもって使おうとしているが、間違った使い方をしてしまうことが多い。	・語彙を増やすためのプリント練習や漢字ドリルを、繰り返し行い、正しい知識を身に付ける。 ・校内で体験したことの感想や返事のお礼の手紙書くように習慣付け、長い文章に慣れさせるようにする。 ・日記を書く取り組みをさせ、書けない児童には会話より言葉を引き出す支援を行い、楽しく取り組めるようにする。 ・全文を書き写すなど書く場面を設定し、確実な定着を図る		
	算数	・時計の読み方、かさや長さを比べる学習などは、体験させることで定着してきた。 ・繰り上がりのない足し算と繰り下がりのない引き算については理解している。 ・繰り上がりのある足し算と繰り下がりのある引き算は、理解に時間がかかっている。	・繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算の仕方を十分理解し、早く計算できるようにする必要がある。 ・単元を問わず、求めた答えの理由がうまく説明できないことがある。	・プリント練習やカード練習を繰り返し、より素早く計算ができるように日々継続し、十分な定着を図る。 ・単元を問わず、算数で使う言葉や既習の事柄を使って、考え方をペアやグループや全体で説明できるようにする。		
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<u>学</u> 平仮名や片仮名の読み書きはほとんどの児童が習得できている。一方で、文章の中での句読点に苦手意識をもつ児童もいる。 <u>学</u> 文章を書くことに意欲的な児童が多い。より書く能力を高めていくため、語彙力を増やしたり、接続詞や指示語に着目したりする意識を高める必要がある。	・片仮名を文章の中で使える力を身に付けることが課題である。 ・語彙力を高めることが課題である。語彙の量を増やすことで、文章に深まりをもたせる。また順序立てた文章を書くことが課題である。	・片仮名を使った文章を積極的に書き、片仮名を使うことに慣れていく。片仮名プリントを活用し、片仮名を使い、より多くの単語を使えるようにする。 ・読書活動を推進していく。落六小100冊プロジェクトを推進し、相互交流等を生かして語彙を増やしていく。また、授業の中で1つの単語の理解を深め課題を改善していく。	・文章を書くとき、片仮名で書く単語は積極的に片仮名を使っている。さらに、片仮名で書く単語はプリント等を活用して、より多くの単語を活用できるようにする。 ・読書活動は意欲的に取り組んでいる。落六100冊読書では、図書ファイルへの読書記録を継続していく。 ・単語の理解を深めるため、漢字の学習では、辞書などを使い、単語の意味を知ることにも推奨していく。	
	算数	<u>学</u> 計算の正確さ等二極化が見られる。繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算に苦手意識をもつ児童もいる。 <u>学</u> 文章問題を苦手とする児童がいる。文章から問題を読み解いて、考える力に課題がある児童もいる。	・計算に時間がかかる児童がいる。頭の中で10の分割を繰り返し行う等、10の組成を意識し計算速度を上げることが必要である。 ・足し算とはどのような計算か、引き算とはどのような計算かをもう一度確認し、読み解く力を付ける。	・10の組成を意識し、繰り上がり繰り下がりへの苦手意識をなくしていく。また、100マス計算などを取り入れて計算の速度を上げる。 ・文章を読み込むことから始める。全体でカギとなる言葉に着目したり、線を引いたりして文章問題の理解を深める。 ・自力解決の時間ではどのように立式するのかを考えたり、友達の意見を聞いて考え方を広めたりして、様々な考え方に触れさせる。	・繰り下がりの計算に苦手意識をもっている児童が多いため、継続して計算練習に取り組む。 ・言葉に着目する意識は高まっている。一方で、文章の内容が理解できずに立式できない児童がいるため、文章問題のプリント等にも取り組ませる。 ・図や絵、言葉で説明できる児童が増えてきた。書いたものを相手に伝えられるよう、発表の機会をさらに設けていく。	
3	国語	<u>調</u> どの項目においても区の平均を下回っている。 <u>学</u> 書くことに苦手意識をもつ児童とそうでない児童との個人差が大きい。 <u>学</u> 語彙力が増え、工夫を凝らした文を書く児童が多く非常に意欲的である。また、自分で辞書等を使って調べて学んでいるため定着度も高い。読書量もさらに増え、登場人物の気持ちを深く読み取る力にもつながっている。	・読解力、語彙力、表現力における個人差が大きい。 ・話すことについても個人差が大きい。 ・漢字の定着度に個人差がある。	・国語科とともに、他教科でも問題解決型の授業改善を行い、発表活動を通じて力を伸ばしていく。 ・4人程度での協働学習を取り入れることにより、対話を通した深い学びを図っていく	・特定の児童だけでなく、さまざまな児童が意見を発表するようになってきている。 ・協働学習の場面では主体的に児童相互でアドバイスをを行うなど学び合いの姿勢が見られるようになってきている。 ・ビブリオバトルの取り組みで読書への関心が高まっている。100冊読書も活用し、多くの本に触れることで語彙力の伸長を図りたい。	

	算数	調どの項目においても区の平均を下回っている。 学九九や繰り上がりのあるたし算の筆算、繰り下がりのあるひき算の筆算などの定着度に差がある。	・なぜそのような解決方法になるのか、根本的な理解につながっていない児童への支援 ・基礎的な計算スキルの定着	・具体物を使ったり、問題解決型の学習を取り入れたりし、算数科への興味・関心を高めるとともに、「数学的な考え方」の育成につなげる ・少人数習熟度学習の利点を生かし、児童の実態に応じて未定着箇所へのフォローを行う	・児童の実態に応じて、全学年での学習内容の復習を行ったり、休み時間や夏休みを活用して未定着箇所のフォローを行ったりすることで一定の成果が見られる。 ・基礎的な計算スキルについては定着しつつあるので反復学習をすることでさらなる定着を図るとともに、問題解決型の学習にも取り組ませる。	
4	国語	調物語の読み取りの力が十分でない場合がある。話を正確に聞き取ることに慣れていない児童も見られる。 学必要な事柄を聞き取り、言葉で伝えたり書き表したりする学習が十分身についていない。 調漢字学習や漢字に対する興味関心とともに理解も高い。しかし、時間と共に忘れてしまう傾向にある。	・文章の中からキーワードを探したり、答えの部分を見つけたりする方法が理解できていない。 ・話を聞いて必要なことは何かを聞き取る力を付ける必要がある。 ・主語、述語、修飾語などの使い方を知り、文を構成する力をつける必要がある。	・話す内容を精選したり、短款的確な指示を出したりし、聞くことへの意識を高める。 ・毎日、音読を宿題とし文章に触れる場面を増やしていく。 ・主語、述語、接続詞や助詞など読み取るために必要な語彙力や使い方を知り、繰り返し宿題で定着を図る。	・小見出しを付けたり、登場人物の心情を読み取る活動を重ねてきたことで、自分の考えをもてる児童が増えてきた。 ・考えを交流する場面では、グループや全体など学習形態の工夫を行い、自他の考えを比較する経験を積ませる。 ・語彙力を養うための読書活動や、文章の構成を問う課題を毎日家庭学習として続け、定着を図っていく。	
	算数	調区の学力調査では基礎的な学習内容・思考力・判断力に関する問題の正答率は区の平均以上を示し、基礎能力が身につけている児童が多いと考えられる。表現力については正答率が平均を下回る児童もあり、伸長が望まれる。 学文章問題への苦手意識がやや見られる。	・関心・意欲は高いので思考を深めるような課題に粘り強く取り組める力を養う必要がある。また学習内容の定着をより確実にしていく必要がある。	・基礎的な計算力を定着させるために、毎日の宿題に計算や文章題を出し、繰り返し取り組む。 ・個別最適化学習のプリントのテストや復習プリントを活用して知識の定着を図る。	・課題解決場面では、既習事項を活かして思考を深めようとする児童が増えてきた。発展問題に取り組ませるなど意欲を高める課題設定の工夫を行う。 ・一方で、既習事項の定着が不十分な児童も見られる。復習問題に取り組ませ、「できる」経験を積み重ねる。	
5	国語	調どの項目も区平均を上回っていたが、「話すこと・聞くこと」については正答率の伸びがあまり見られなかった。正答率分布を見ると、平均を下回る児童が数名いることから学力差が広がっている。 学文章を読むこと・書くことに対し、苦手とする児童が固定化している。一方で、文章表現をもとに自分の考えを書き表せる児童も増えてきた。	話の中心をとらえたり、自分の経験など関わらせて考えたりにすることに課題がある。また、語彙の低さも見られ、考えたことを効果的に言葉で表現することにもやや課題が見られる。	段落ごとに要点をとらえる活動では、個人読みの時間と交流の時間を活用し、読み取りの力を高める。また、考えをまとめる学習では、登場人物に対して肯定的見方・否定的見方に立って自分事として捉えられるようにする。語彙力については、調べ学習を通して、様々な表現に触れる機会を増やす。	・登場人物の言動から思いを読み取る活動を通して、表現の幅が広がり、深い読みができるようになってきている。 ・授業で児童間の対話をする活動を繰り返し、さらに多様なものの捉え方や考え方を身に付けさせていく。	
	算数	調どの項目も区平均を上回っていたが、「図形」については正答率の伸びがあまり見られなかった。正答率分布を見ると、正答率が平均を下回る児童が数名いることから学力差が広がっていると考えられる。 学計算問題は比較的できているものの、思考力を求められる問題では、正答率が低くなる。	思考を深めるような課題に粘り強く取り組んだり、違う視点から再考したりすることに課題がある。また、学力の低い児童は、掛け算九九や2けたのわり算など、既習事項の積み重ねが十分でない。	解決方法が何通りもある課題やプロジェクト型の学習内容を取り入れ、既習事項を活かして思考を深められるよう工夫する。また、取り出し指導を活用し、算数の学習につまずきのある児童への支援を継続的に行う。	・友達の考えを聞き合ったり、教え合ったりする活動を通して、考えを整理しながら理解を深めることができている。 ・また、教科書を個人で解き進め、レポートにまとめていく活動にも取り組み、成果を上げている。 ・立式や見当は正確さが増してきているので、計算でつまづかないように、基礎的な計算を反復させていく。	
6	国語	調「書くこと」の項目が区平均を上回っていた。「聞くこと・話すこと」については今後の指導の改善が必要であると考える。 学「書くこと」については、文章の構成を意識し、効果的な表現で書くようとする児童が増えている。	「聞くこと」については、話の要点を捉えにくく、「話すこと」についても、話の中心が定まらず話す姿が見られる。	説明文での「はじめ」「中」「終わり」を話すときや聞くとともに意識させ、中心となる内容に目を向けられるように指導する。朝会等での発表の機会を活用し、児童が自らの取り組みの成果を振り返ることができるようにする。	・全国学力調査の結果から、14項目中10項目において全国平均を上回った。 ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の結果が振るわなかったので、敬語や慣用句等、日本独特の言語についての指導に力を入れていく。	
	算数	調 全体的に区の平均同等の結果となっていた。その中でも活用問題の結果の伸びは良い。 学 意欲的に学ぶ姿が目立ち、難しい問題に取り組もうとする児童が多い。	かけ算にも時間がかかる児童もあり学力の開きが目立つ。また、文章題等の内容を理解できない児童がいる。	個別な指導、ペア学習、少人数指導などを活用していく。 個別最適化学習のプリントを丁寧に取組ませ、児童が自分の伸びを実感しながら意欲を高めていけるようにする。	・全国学力調査の結果から、14項目中11項目において全国平均を上回った。 ・日頃の授業では発展学習としてレポート形式で学びをまとめる取り組みを行っている。 ・児童の興味・関心を数学的な考え方につなげられるような指導の工夫をしていく。	
音楽	・全学年、歌唱も楽器の演奏についても、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。曲想と旋律の特徴や曲の構造を結び付けて考えることが身に付きつつある。 ・演奏することは好きだが、曲想に合った表現をするための技能はまだ不十分である。互いの演奏を聴き合う力を付けることが課題と考える。		・楽しく音楽とかかわる活動を通して、声の出し方や楽器の演奏の仕方等、音楽の基盤となる能力を経験的に身に付けるようにする。 ・小グループでの活動や演奏発表の場を設定し、一人一人が楽曲の曲想や構成について意見をもち、より良い演奏を目指すようにする。	・各学年に応じた内容で、曲想と旋律の特徴とを結び付けながら音楽を感じ取る学習を展開する。 ・演奏するために必要な技能を学年に応じて丁寧に指導する。 ・小グループでの活動を通して、友達と音を合わせる楽しさを十分に味わわせ、友達との関わりを大切にしながら、音楽について意見を交わし、自分の演奏に生かせるようにする。	・器楽については、一斉指導の後ペアで聴きあったり、教え合う活動をしたりすることで、児童同士の活動を大切にするようにする。 ・全学年、木琴、鉄琴、打楽器の合奏を取り入れ、学年に応じた奏法を指導する。	

図工	・全学年、造形活動を行うことが好きで、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。表現や鑑賞の活動に前向きに取り組み、よく考え素直に表現する力がついている子が多い。 ・表現することは好きだが、材料や場の違いを味わいながら表現を深めていく活動には結び付きにくい。また、人工的な材料だけでなく土や風など自然の材料にも触れ様々な経験をすることが今後の課題と考える。	・材料や場、友達とかかわる中で、ものづくりの楽しさを味わう。また、表現することの良さや価値を見つけ認め合えるような力を、活動を繰り返す中で身につけていく。 ・みんなでつくる難しさや協力する素晴らしさを味わう中で、「共生」できるよう互いに認めあえる児童を育成する。互いの良さや違いに気付けるようにする。	・児童の実態に合わせ「感じる－考える－かかわる－表す」という流れが何度もスパイラル状に続いていくような題材を検討しテーマ、材料、場を厳選し授業を行う。 ・「ねらい」の明確化と言葉による「ふりかえり」を毎授業で取り組み、考えたこと、試したこと、うまくいったことなどをはっきりして、習得したことがそのままにならずに積み重なっていけるよう意識することで学力の向上を行う。	・全学年、造形活動を楽しむ中で、各自で考えながら表現することができている。 ・児童の交流や鑑賞の時間から活動の幅を広げ、個々の表現がさらに深まるようにする。	
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。